

## 中善宏名誉教授記念号の発刊に寄せて

学長 秋山 義昭

この度、商学討究第57巻第4号を発刊するにあたり、長年本学の発展に尽くされた小樽商科大学名誉教授中善宏先生のご功績を讃え、本号を「中善宏名誉教授記念号」とさせていただきます。

中善宏先生は、1968年に北九州大学商学部を卒業後、神戸大学大学院経営学研究科修士課程、同研究科博士課程に進学されました。本学には1976年4月に講師として着任され、1978年に助教授に、1987年に教授に昇任されております。着任以来30年の長きにわたり本学教員として勤務いただき、研究、教育の上ではもちろんのこと、学内運営の面でも多大のご貢献をしてこられました。2006年3月をもって定年退職されました。

先生のご専門は管理会計で、行動会計およびマネジメント・コントロール・システムが研究の中心領域でした。とりわけ、予算管理の研究に関して多くの業績を残され、研究方法の特徴としては、実験室実験を試みるなど、実証的な研究に重点を置いていたと言えます。

また、先生は、隣接する関連科学の成果を管理会計に取り入れることにも積極的で、人間情報処理心理学の適用可能性を模索したり、現代制御理論の状態空間制御モデルを紹介するなど、常に最新の研究と取り組んできました。こうした研究成果は学会でも高く評価されることとなり、平成12年、日本原価計算学会賞が授与されました。

先生の関心はそれに止まらず、財務比率による企業の競争戦略といった領域にも広がり、その成果は1996年に出版された『企業会計の展望』（税務経理協会）に結実しています。

最近、イギリスの産業革命期における原価計算の研究を進めておられ、当時の製陶業者の残した古文書を手がかりに原価計算の原点にまで遡った研究は、いかにも先生の懐の深さと旺盛な意欲を感じさせます。

中先生の以上のようなご活躍に対し、本学教育研究評議会は、教育上、学術上功績が特に顕著であって、本学発展のために多大のご貢献をいただいたものと認め、小樽商科大学名誉教授の称号を授与することといたしました。

定年退職後、先生は、引き続き愛知大学大学院会計研究科教授として教鞭をとっておられます。これからも健康に留意され、一層学界のために寄与されることをご祈念申し上げ、記念号発刊のご挨拶といたします。